反復唾液嚥下テスト｜RSST

A｜30秒の唾液嚥下を数える

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

実施手順

1 口腔内を清潔にし、説明への理解・覚醒・呼吸・姿勢を確認する。乾燥や保湿の実施も記録する。

2 唾液を繰り返し飲み込むよう説明。舌骨・喉頭隆起に指腹を軽く当て、合図から30秒を測る。

3 上前方への移動だけでなく、元の位置へ下降したところを1回の完了として数える。頸部を押さえ込まない。

評価・記録

結果	記録
30秒間の完了回数	_____ 回
検査の成立	☐ 成立 ☐ 指示理解不十分 ☐ 触診不明瞭 ☐ 中止
姿勢・口腔乾燥・保湿／中止理由	

成立した30秒測定で0〜2回は陽性、3回以上はこの基準では陰性。指示理解不良は判定不可。中止した回数を30秒へ換算しない。

実施条件・症状／標準手順から変更したこと

出典・版の確認

小口ほか：RSST妥当性の検討（2000） ↗

日本摂食嚥下リハ学会：評価2019（p25） ↗

測定手順・評価要素を出典に基づき独自に整理した記録用紙です。メーカー・学会の公式様式ではありません。

反復唾液嚥下テスト｜RSST

B｜追加の臨床記録 ― 評価本体の得点には加えません。

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

01 結果と生活場面をつなぐ

回数が少ない理由として、嚥下機能に加えて乾燥・理解・覚醒を確認します。陰性でもむせや肺炎歴等があれば追加評価します。

本人が困っている具体的な場面／本人・家族の言葉

検査で観察した事実／生活で確かめること

02 支援を一つ試す

記入例（架空）：30秒で2回。乾燥と食事中の湿性嗄声を記録し、担当者と食事観察・精査の必要性を共有する。

目標と、試す支援・環境・介助条件

実施日・場面	本人の行動・結果	必要な援助・負担

03 再評価

前回：_____ 今回：_____ 条件の違い：_____

次回確認すること・担当者・予定日

追加観察はSTROKE LAB独自欄です。検査の得点と、生活で実際にできたことを分けて共有します。